

食の循環「給食大作戦」

豊中市が環境団体や農家とタイアップ

調理／おひる 土壌改良材／野菜栽培

学校給食の調理／おひる作った土壌改良材で野菜を育て、学校給食に使われる「食の循環」作戦が豊中市で進む。市が環境団体や農家とタイアップして取り組んでいるもので、「生まれ変わった野菜」が今年初めて小学校の給食に登場。子もまたが古びを打つ。市公園などでは「おこし野菜をたいへん食べ」となる言葉は郷間の「生まれ変わったことを知りはじめる」と語っている。

土壌改良材は「野菜」と「花と緑のネッキ」と協力。同組織の愛称で呼ばれる、市内の力所の給食センターや学校給食から出た調理いらずなどに、街路樹のせんべいで生まれた枝を加えて、醸造させて作る。



土壌改良材は「野菜」と「花と緑のネッキ」と協力。同組織の愛称で呼ばれる、市内の力所の給食センターや学校給食から出た調理いらずなどに、街路樹のせんべいで生まれた枝を加えて、醸造させて作る。

市は2年4月、同市原田2丁目22-1にサイクル農業と養育生産をする「緑と食品のリサイクルプラザ」を建設費約2000万円で建設。調理／おひるで生産の過程などを巡回してくる。昨年は野菜約100kgを生産。家庭菜園用などに低額販売し、農業祭など開催している。

土壌改良材は「野菜」と「花と緑のネッキ」と協力。同組織の愛称で呼ばれる、市内の力所の給食センターや学校給食から出た調理いらずなどに、街路樹のせんべいで生まれた枝を加えて、醸造させて作る。

トニー／花と緑のネッキ／市議会議員（55）の光久隆志（55）の想い野菜を入れて古木や

味が濃く、堅持する味が特徴。今月22日には市内数の小学校でネギを使つたみそ汁を味わつた。資源再利用で生まれた野菜をつけて野菜汁、残り半数の小学校で出される野菜汁を再発揚する。

2005. 6. 29 毎日新聞